人社プロ社会制度グループ研究会　2006.8.29 於:小樽商科大学札幌サテライト

先住民における多元的「貨幣」受容形態

－東洋と西洋と－

角南聡一郎

貨幣とは、「価値の尺度」「交換の媒介」「価値の保存」の機能を持ったモノである。貨幣の誕生は、紀元前 7 世紀に古代のアナトリア半島 (現在のトルコ)のリディア王国においてであった。初めはエレクトロン合金貨幣、のちには金銀貨が鋳造され、ギリシア人に採用されて普及することになった。古代ギリシア文明は、ヨーロッパ文明の源流であり、西洋的貨幣の起源といえる。一方、中国では春秋戦国時代（紀元前 770 年～紀元前 221 年）に貝貨・刀貨・布貨といった原始貨幣をかたどった銅製鋳造貨幣が製作された。こちらが東洋的貨幣の起源である。

西洋でも東洋でも先進国から、周辺地域へと貨幣は広まっていった。しかし、市場に埋め込まれた社会ではない、非市場社会である先住民社会はこうした貨幣を単に貨幣として使用するのではなく、辟邪や装飾品としての利用することが多かった。また、金貨、銀貨などは貨幣というよりも金、銀という素材が重宝されたり、金、銀の装飾品として取り扱われたりする場合も多々あった。

日本植民地時代台湾では 1904 年に台湾銀行券が発行されて、貨幣統一が完成した。しかし、台湾原住民たちの間では、制度とモノの乖離した状況にあった。依然として宗主国日本の近代貨幣制度を受容することなく、彼らの慣行を遵守していった。

台湾では、ヤミ（タオ）族、アミ族、パイワン族などにおいて日本貨幣の部材的、装飾的使用（転用）が認められる。部材的使用はヤミ（タオ）族にのみ見られる。1918 年にイモロッド村に交易所ができ、日本人が銀貨（十銭、五十銭及び一円）でヤミ族から夜光貝や海人草、土器製の壺、木彫りの船などの民芸品を買い付けた。この時以来ヤミ族は日本から流入した多くの日本銀貨を手に入れることとなったのである。しかしながら、ヤミ族の人々は獲得した銀貨を流通する貨幣として使用しなかった。これを銀の甲、銀の腕輪などの材料として用いた（徐 2003）。

アミ族、パイワン族などでは、貨幣に穿孔を施して装飾的に使用している（林 2002）。これは単なる装飾の意味だけでなく、シャーマンの使用用具にも用いられることから（徐 1962）、辟邪的ニュアンスもあったと考えられる。これは、形骸化しながらも現在の、台湾原住民民族衣装の土産物にもデザインとして残存している。

また、考古資料としては台湾原住民の祖先が残したと考えられる、台北県八里郷十三行遺跡より出土した銭貨にも径 2mm の穿孔が認められる（臧・劉 2001）。これは垂下装飾のために施されたと考えられる。同遺跡からは、合計 99 枚の銅銭が出土しており、そのほとんどが中国銭であるが、隆平永寶や寛永通寶などの日本銭も出土している。

このような台湾での状況を参考にするならば、琉球における開元通寶、本土における貨泉などの初期出土中国貨幣も、流通貨幣としてではなく威信財的意味で将来されたと考えることが可能ではないだろうか。また、このような貨幣の利用方法は、アイヌの民族資料、シベリアの出土資料、タイ・アカ族やボルネオ・ダヤク族、アメリカ・ズニ族の民族資料などにも認められる。中国でも、新疆ウイグル自治区などの辺境から出土するローマ貨幣も、装飾品として加工されたものが多く出土している。キルギス・カザフスタンなど中央アジアにも同様の現象が起こっている（KLAVDİA- AYDARBEK 2004）。

【引用・参考文献】

安里嗣淳 1991「中国唐代貨銭「開元通寶」と琉球圏の形成」『文化課紀要』7 沖縄県教育委員会 pp1－10

井上伸一 2003「医療儀礼における貨幣とコスモロジー」『論集 仏教土着』 法蔵館

井上伸一 2004「民俗儀礼の中の銭貨」『出土銭貨』20 出土銭貨研究会

王維坤 2003「死者の口に貨幣を含ませる習俗の再研究」『考古学に学ぶ（Ⅱ）』 同志社大学考古学シリーズ刊行会

小畑弘己 1997a「出土銭貨にみる中世九州・沖縄の銭貨流通」『文学部論叢』57 熊本大学文学会

小畑弘己 1997b「九州・沖縄における出土銭貨研究の現状と課題―九州・沖縄銭貨出土遺跡地名表―」『先史学・考古学論究』 龍田考古会

小畑弘己 2002「九州・沖縄地方」『季刊 考古学』78 雄山閣

嵩元政秀 1970「沖縄県内出土の銭貨について」『南島考古』1 沖縄考古学会 pp20－32

（財）アイヌ文化振興・研究推進機構編 2005『ロシア民族学博物館アイヌ資料展』 （社）北海道開拓記念館

臧振華 2001『十三行的史前居』 台北県立十三行博物館

臧振華・劉益昌 2001『十三行遺址：搶救与初步研究』 台北県政府文化局

徐瀛洲 2003「金銀銅の装飾品」『自然と文化』73 日本ナショナルトラスト

徐人仁 1962「排灣族的巫師箱」『中央研究院民族學研究所集刊』14 中央研究院民族學研究所 pp173－191

高宮廣衛 1995「開元通寶からみた先史終末期の沖縄」『王朝の考古学－大川清博士古稀記念論集－』 雄山閣 pp267－286

高宮廣衛・宋文薫 1996「琉球弧および台湾出土の開元通宝－特に 7～12 世紀ごろの遺跡を中心に－」『南島文化』18 沖縄国際大学南島文化研究所

田中清美 2002「大阪府下出土貨泉の検討」『大阪歴史博物館研究紀要』１ 大阪歴史博物館研究

枡本哲 2001「シベリア北辺への中国銭貨の流入とその文化史的背景」『出土銭貨研究』 出土銭貨研究会

枡本哲 2003「南シベリアにおける清朝銭出土の背景」『出土銭貨』18 出土銭貨研究会

宮武辰夫 1937『東印度諸島の怪奇と芸術』

林建成 2002『台湾原住民芸術田野筆記』 芸術家出版社

山泰幸 1998「貨幣と他者性　貨幣の民俗学ノート」『日本学報』17

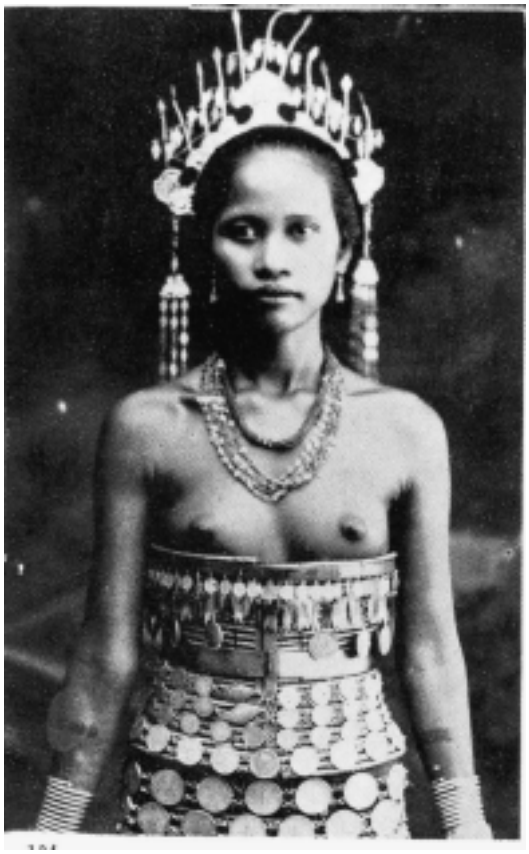
KLAVDİA, ANTİPİNA - AYDARBEK, KÖÇKÜNOV 2004 The Kyrgyzs Folk Clothes Türk Tarih Kurumu

ナンシー・ヨー・デーヴィス　2004『ズニ族の謎』筑摩書房（吉田禎吾／白川琢磨訳）

十三行遺跡出土の銅銭（臧・劉 2001）

パイワン族の貨幣転用装飾品（林 2002）

アミ族の貨幣転用装飾品（林 2002）



ダヤク族の民族衣装（宮武 1937）

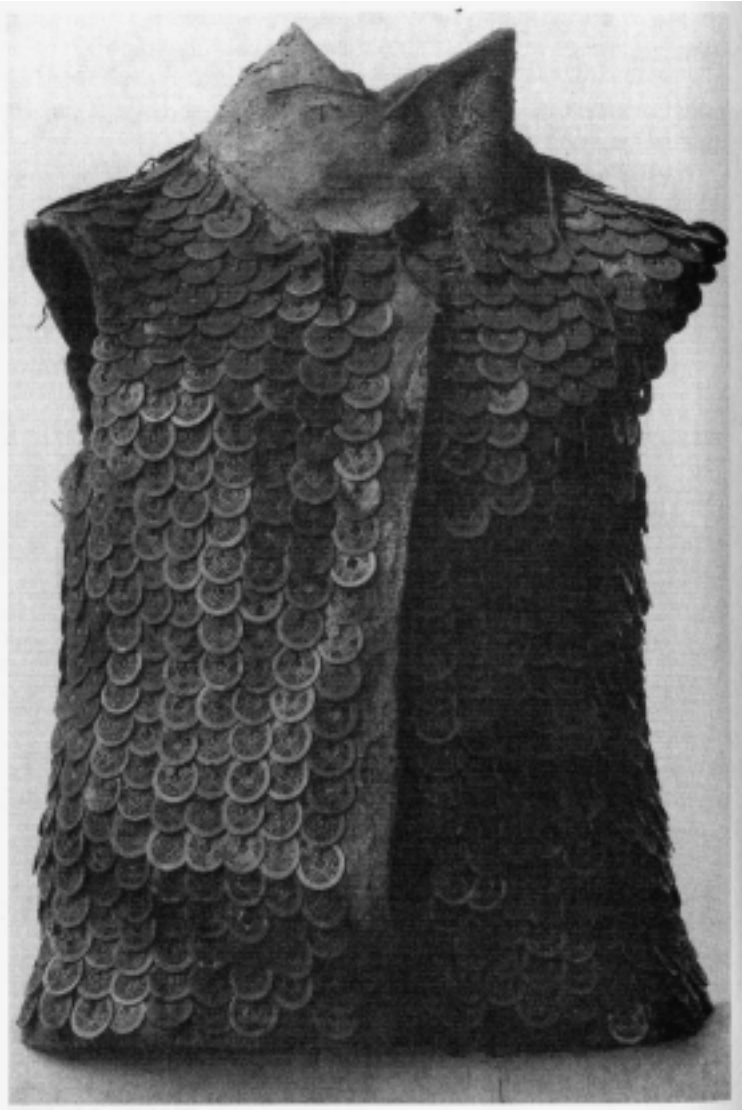
領北ボルネオ発行の絵葉書

（http://borneo.web.infoseek.co.jp/）

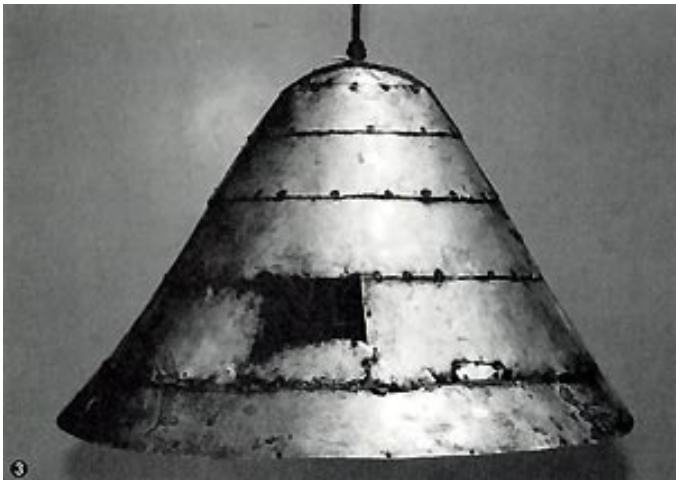
キルギスの民族衣装（KLAVDİA - AYDARBEK 2004）

ロシア民族博物館蔵のアイヌ資料に見られる寛永通寶（（財）アイヌ文化振興・研究推進機構編 2005）

ロシア民族博物館蔵のアイヌ資料に見られるセントルイス万博（1904）記念メダル
（（財）アイヌ文化振興・研究推進機構編 2005）



トリンギット族の民族資料に見られる中国銭（デーヴィス　2004）



ヤミ（タオ）族の銀製品（徐 2003）